

推進テーマ

園から小学校への接続を 考えた連携の在り方

横浜市六浦南地区
南六浦保育園
六浦南小学校

推進テーマ設定の理由

連続的な支援を行うことで、児童理解が進み、児童一人ひとりのよさや可能性を引き出す指導の充実をより図ることができる。その結果として、自尊心を高めることができることを期待してこのテーマを設定した。

推進内容

園での生活についての情報交換を図り、それらをふまえたスタートカリキュラムの在り方について探る。また、園の職員を招いて接続期の連携を図ったり、園の職員と一緒に児童理解の話合いをしたりなど連続的な支援を図れる連携の在り方について探る。

今年度の重点課題

～今年度力を入れたこと～

1年目ということで・・・

お互いの様子を知ろう！

児童と園児の交流

- ・ 小学校の運動会練習の見学
- ・ ウェビングマップを通じた交流
- ・ 公園での出会い
- ・ 小学校へ招待

職員同士の情報交換

- ・ 保育体験
- ・ 小学校の授業参観
- ・ 保育園の運動会見学

連携推進事業の実際

○南六浦保育園の園児が1年生の運動会練習を見学



小学校

- ・ 見に来てもらえてうれしかった。
- ・ 来年この学校にくるんでしょ。楽しみ。
- ・ 一緒に遊びたかったな。



保育園

- ・ カッコよかった。
- ・ 小学校のことが気になる。
- ・ 心配なことを聞いてみたいな。



興味・きっかけ

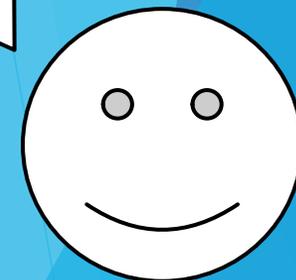
○南六浦保育園とのウェビングマップ交換



小学校

- ・心配していることがたくさんあるんだね。
- ・大丈夫だって伝えたい。
- ・来てもらったらいいんじゃないの。
- ・保育園の子が入学する前に自分たちも準備したいね。

もっと関わりたい



○南六浦保育園の運動会を1年担任が参観



保育園

- ・子ども達は、家族同様『見に来てくれた人』という感覚をもった。
- ・来園いただいたことで、保護者に推進地区事業の紹介をすることができた。「見に来てくれた」「嬉しい」「安心する」等、保護者も巻き込んだ推進地区事業のスタートになった。

小学校

- ・園児にできることがたくさんある。
- ・自分たちで動けている。
- ・集中できる時間が長い。
- ・ソーラン節など小学校と共通する事項がある。指導に生かすことができそう。

○小学校の職員が 1 日保育体験

小学校

- ・発達に応じた場の設定や、子どもたちが思い思いに発想を広げられる材が参考となった。
- ・自由保育の様子を参観する機会となった。
- ・一緒に遊ぶ経験を増やすことができた。



保育園

- ・小学校の教員に質問したり、思うことを伝えたりできて就学（小学校）への興味や意識が高まった。
- ・一緒に遊んだことで、安心したり、先生が身近な存在に感じたりすることができた。



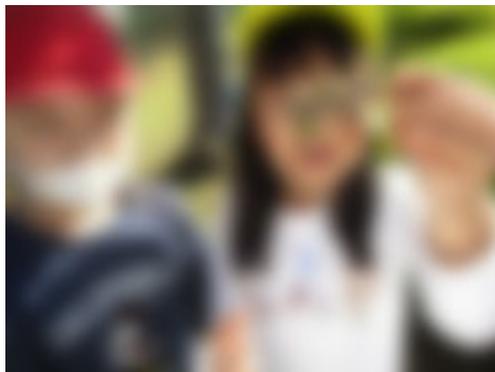
○ 1年生の生活の授業を南六浦保育園の職員が参観



保育園

- ・授業中の指示や支援、場の設定が園での支援を見直すきっかけとなった。
- ・作品の発表の様子から、何の為に声かけしているのかを考え、一人ひとりの育ちを理解してその子にあった適切な対応をしていくことが大事だと感じた。
- ・卒園児の成長した姿を見る機会にもなり、嬉しさや安心感を
得た。

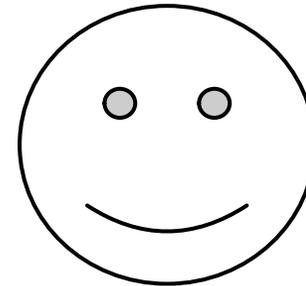
○秋探しに行った公園で1年生と年長児が出会って、一緒に遊ぶ。



どんぐりをひろってるんだあ。
このどんぐりもあげるよ。

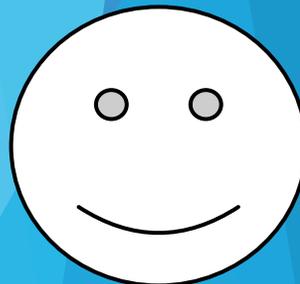
保育園

- ・小学生がいてびっくりした。
- ・いつもの先生もいたよ。
- ・小学生も公園で遊ぶんだ。
- ・天気がいいからかな。



小学校

- ・だれだろう。
- ・南六浦保育園の子たちだ。
- ・いっしょにあそぼう。
- ・また今度あそぼうね。



○生活科の「あきとともにだち」で年長児を招待

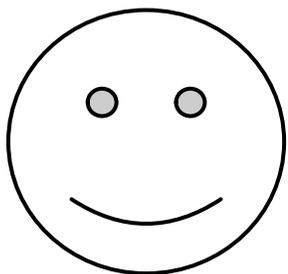


小学校

- ・南六浦保育園の子たちを呼ぼう。
- ・分かりやすいポスターにしよう。
- ・お土産もわたしたいな。

保育園

- ・まねをしてみたい。
- ・たしかこんなかんじだったよね。
- ・他のクラスも招待できるかな。



▶ 成果

- ▶ 今年度は、保育園と小学校のお互いの実態を知ることができた。小学校からは、小学校で思っていた以上に園児は、多くの経験をしていることや、話し合いながら様々な活動をしていることを知った。
- ▶ 保育園からは、小学校での学習の進め方、場の設定、使っている用具などが参考になったという話を聞いた。
- ▶ 1年間を通して交流をすることで、職員同士も親睦を深めることができ、気軽に相談できるという安心感が生まれた。
- ▶ 秋遊びの交流を通して、そこから「自分達も」とつながっていったことは交流が単なるイベントで終わることなく、今の子どもたちの育ちに貴重な経験として種がまかれたことを感じた。
- ▶ 子ども同士の交流の回数が増えることでまた新たな発見や経験があると思う。

課題

* 園と学校の距離が遠いため、こども同士の交流の頻度や時間の確保が難しい。

* 今年度は、お互いの様子を知ることが中心だったので、来年度はお互いの実態をふまえたうえで、どのように交流していくのかをさらに考えていきたい。

* 来年度はさらに先生方との顔の見える関係、相談したり質問しあったりできる関係作りも深めていきたい。

* 今年度の子ども達の姿からできることを見つけ、子ども達の声やつぶやきを拾い、思いを実現できるよう連携していきたい。